NCN討論番組

多事彩々

地域を見つめ未来へ歩む

題字は柴山抱海氏

再生エネどう活用

スマートグリッド促進 鳥取型植物工場を拡大 新しい地域づくり可能

小林氏 原田氏 千葉氏

テーマ　エネルギーと新産業への展開

地域を見つめ直し、将来の発展には何が必要なのか、討論を通じて解決策や妙案を模索するＮＣＮの討論番組「多事彩々」。昨今、再生可能エネルギーの利活用が注目を集めています。東日本大震災以降、原発事故問題などからエネルギーに対する人々の意識も変化しつつあり、再生可能エネルギーは新産業発展の可能性も秘めています。鳥取らしさを打ち出しながらの地域発展策とは…。今回のテーマは「エネルギーと新産業への展開」です。

出席者

◇ゲスト◇
鳥取市経済・雇用戦略課長　小林　靖尚氏
ＨＲＤ代表取締役社長　原田　宜明氏
◇コメンテーター◇
鳥取環境大学地域イノベーション研究センター長　千葉　雄二氏
司　会　日本海ケーブルネットワーク編成制作部アナウンサー　清水　隼人

再生可能エネルギーの活用から新産業につなげる手法などを議論する出席者

千葉　雄二氏

原田　宜明氏

小林　靖尚氏

司会　県内をはじめ国の先行４地域の指定など、活発化している再生可能エネルギーの利用などの動きをどうみますか。

千葉　大きな流れはエネルギー革新として捉えられます。日本の製造業は大企業中心に展開してきましたが、地域での展開が可能になりました。これまで地方に進出する場合は、労働力の活用を中心としてきましたが、地域の資源に注視して産業を展開していこうということになります。地域にとっては、新しい産業の発展性を持つことになりました。

司会　活用に取り組むことの意義は。

千葉　エネルギー革新といいましたが、これまでの石油産業を考えると、大量生産で、ある地域一極で発展するシステムができました。エネルギーに制約はありません。当初は環境に配慮しませんでしたが、20世紀後半には環境破壊から、食料生産の土地などに制約があるという認識が出てきました。そこで、新しいエネルギーとして再生可能エネルギーが捉えられます。地域の環境に依存しつつ共存するというのが、再生可能エネルギーの在り方で、極めてシンプルなものです。

例えば、太陽光や風力発電はシンプルで地域にとって共存性の高いシステムです。新エネルギーにより、地域の復権にも大きな可能性を示しているのではないかと考えます。

小林　再生可能エネルギーは、小規模な発電▽地域に分散▽不安定－という三つの特徴を持っています。地域で効率的に利用する必要があり、電力ネットワークが必要です。そこには新しいビジネスが生まれます。

原田　関東や関西では節電が叫ばれていますが、中国地方もいつ逼迫するか分かりません。経営者としては事業継続のために、地域でエネルギーをつくるということは必要です。今の技術では、再生可能エネルギーの活用は現実的で、早急にやらなければなりません。

■農業の課題解決も

司会　行政側はどのような取り組みをしていますか。

小林　鳥取市では産官学で構成しているスマートグリッドタウン推進協議会を設立し、スマートグリッドタウン構想を策定して若桜台で実証事業を始めました。再生可能エネルギーの導入促進や植物工場の導入促進、スマートグリッド導入促進を柱にしています。

司会　民間サイドではどうですか。

原田　当社は元々、発光ダイオード（ＬＥＤ）を製造しています。スマートグリッドではソーラーパネルの電力で工場を運営しながら、地中熱の利用も導入しており、イチゴ栽培などの実証実験を行っています。

司会　スマートグリッド実証事業について説明を。

小林　スマートグリッドタウンでは、鳥取型植物工場でＬＥＤを活用したイチゴ栽培のほか、スマートハウスは将来のモデルハウスです。エネルギーの融通システムとして一つの蓄電池でシェアリングする方法を取り入れています。エネルギーと食料のダブルの地産地消を目指し、ＬＥＤ、エネルギー融通システムの中に新しい技術が盛り込まれています。

千葉　地域にどんなメリットが。

小林　蓄電池のシステムは、エネルギーを通じたコミュニティーの形成につながり、ＥＶのシェアリング、コラボの展開も考えられます。

司会　植物工場の特徴は。

原田　完全閉鎖型の建物の中で、人工光でのみ栽培しています。すべて人工でコントロールしており、天候に左右されずに安定して生産するメリットがあります。路地ではなく、計画的に作れるというメリットがあり、害虫被害もなく農薬も使わないため安全です。密閉空間の閉鎖型工場システムなので投資も低く、プランニングの自由度も広がります。

司会　稼働状況は。

原田　イチゴの栽培ですが実験段階です。２００～３００株程度。どういう条件がいいか導き出す検証中です。

千葉　植物工場一般を考えると、農業を大きく変えることになります。農業の世界では、技術はあるが後継者もいない現状があります。植物工場はこうした問題を一歩ずつ解決し、農業を再生し、新しいスタイルとして発展するかもしれません。

■新たな雇用を創出

司会　鳥取ならではの産業展開は考えられませんか。

原田　従来の植物工場は大掛かりで実験室のような施設でしたが、弊社の場合は低コストで可能です。高齢者や障害者の雇用にもつながるような、気軽に作業ができるシステムをつくりました。新しい雇用にもつながり、付加価値の高い野菜を作って、全国販売にも踏み切る予定です。鳥取型の植物工場を県外へも展開し、雇用の確保につなげたいです。

司会　鳥取らしさへの支援は。

小林　今後、市雇用創造協議会で環境・エネルギー分野の人材育成を求職者対象に実施していくほか、中心市街地の空き店舗を活用した植物工場のビジネスモデルを実施して、新しい産業に結びつけていきたいです。

司会　中心市街地の空き店舗を利用して植物工場という発想は面白いですね。

小林　食のブランド化という中で、量の確保のためにもという考えでスタートしています。

千葉　地域の一つの流れが変化する契機になればというのが、空き店舗の活用。施設整備も含めて設置となると、地域の人が参加しないとできません。鳥取は電気産業のウエートが高いですが、新しい仕組みにしろ、可能性を持っています。鳥取らしさを考えると温泉、波力、地熱もありますが、いろんな可能性を秘めており、地域と企業が一体となることで新しい展開に結びつくだろうと思います。

司会　新展開への期待感は。

小林　若桜台の実証事業は、各界の協力を得ている新しいビジネスモデルです。産官学の連携を一層強める必要があります。助成制度もあり、新技術の開発などにも取り組んでもらいたいです。

原田　今後は県外や国外へも展開していくことで、雇用や産業の創造にもつなげたい。鳥取型植物工場で、国内の食料自給率が上がればと思います。

司会　今後の方向性は。

千葉　再生可能エネルギーの活用は、小さい規模でも大きな規模でもできます。例えば家庭でも可能です。日々の生活と密接に関わってきます。エネルギーの地産地消は無駄がなく、地域に共存していく意識が出て、生活全般にプラスです。地域が主体となって進められることから、新しい地域社会をつくることにつながります。

（詳細は番組をご覧ください）

◇「多事彩々」は25日午後９時から初回放送。27～30日までは午前９時、午後２時、深夜０時からお届けします（県議会中継時は変更あり）。